



コロナ禍での生活困窮者の状況 もやいの活動から

大西 連 Ohnishi Ren

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長

<https://www.npomoyai.or.jp/> mail : ohnishiren@npomoyai.or.jp

Twitter : @ohnishiren Facebook : ohnishiren



自己紹介：大西連（もやい理事長）

認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい

日本の貧困・格差の問題に取り組む

- ・生活困窮者への相談支援
- ・ホームレス状態の人のアパート入居の際の連帯保証人引受
- ・居場所作りやコミュニティ作り
- ・生活保護や社会保障制度の提言等

政府のSDGs推進円卓会議構成員
日本いのちの電話 理事





経済的に困窮する
人間関係で孤立する

SOSを
発信する

生活保護を
受給する

アパートに
入居する

自立生活
を始める

つながり
の中で生きる

安心して安全な
社会で暮らす

当事者の気持ち



生活困窮
健康の不安
極度の我慢



恥辱の意識
(スティグマ)



住まいがない
不衛生な劣悪環境
単独入居が困難



安堵
滞納不安
孤独



疎外感からの解放
自分の居場所
希望、勤労意欲



社会のアウトサイ
ダーからインサイ
ダーへ

タッチポイント
(当事者・社会との接点)

電話、メール、
事務所で面談

役所同行

事務所

葉書
訪問

サロン、コミュニ
ティ

メディア、通信、SNS、
講演 (全国各地)

取り
組
み
の

具体的
な
活動

4事業と
ミッシ
ョン



ホット
ライン

面接
相談

制度利用
サポート

生活相談・支援事業



入居先
紹介

連帯保証人
緊急連絡先

安否
確認

入居支援事業



イベ
ント
開催

居場所
づくり

交流事業



政策
提言

情報
発信

講演

広報・啓蒙事業

貧困問題を社会的に解決する

個人の変化

- 健康で文化的な最低限度の生活の確保
- 社会保障の利用

- (路上/公園/施設など広義のホームレスやネカフェ難民減少
- 勤労機会の確保

- 社会的孤立状態の解消
- 安全と安心

- 社会的理解の醸成
- 個々人の支援広がり

社会の変化



- ナショナルミニマムの実現
- 絶対的貧困の低減

- ハウジングファーストの進展
- 「貧困ビジネス」への対応
- 公的扶助の低減

- 無縁社会の克服
- 税収の増加

- 国・自治体の制度に
- セーフティネットの充実 (貧困の予防)

SDGs (持続可能な開発目標) 2030アジェンダ “貧困をなくそう (NO POVERTY)” => (相対的) 貧困率を半減へ



新型コロナウイルスの影響



2020年2月終わり～3月にかけて相談が急増

- 元々ネットカフェ生活をしていたが日雇いの仕事が減った。
ネカフェ代を払えなくなり路上へ。
- 建築関係の仕事（請負）をしていたが不況で仕事が減った。
今月の家賃が払えていない。
- 業務委託でイベント関係の仕事をしていたが仕事がなくなった。
友人と部屋をシェアしていたが家賃を払えなくなった。
- 工場で派遣で働いていた。寮を今月中に出ないといけない。
寮を出ると行く場所がない。
- いま車上生活をしている。単発の仕事をしていて収入は少ないが、
まだ貯金があって何とかなっているが来月は貯金が尽きる。
- 生活福祉資金の貸付の相談をしに行ったら、窓口が混んでいて面談
予約が1週間後に。それまでの資金がもたない。



- ・ 感染予防を徹底する
- ・ 相談支援について拡大する
通常相談にプラスして新宿ごはんプラスと合同で
毎週土曜日に食料品配布と相談会をおこなう
- ・ 交流事業は停止する
- ・ 住まい探し等についてオンラインで実施
- ・ アパート型シェルターを新設
- ・ メディアでの発信や政策提言をおこなう



医師の指示のもと、相談活動
については、
感染予防を徹底している。

また、相談ブースの見直し、
備品等の買い替えもおこなった。



相談時のルールについて 必ず守ってください

新型コロナウイルスによる感染症が拡大しています。
医師の指示のもと、下記のルールを作りました。
守れない方の相談はお受けできません。

- ・マスクを必ず着用してください。マスクがない方にはこちらで用意します。
- ・受付時に必ず検温をします。37度以上ある方は医療機関をご案内します。
- ・受付時にアルコールジェル等による手指消毒をおこないます。
- ・トイレのあとや相談の前後などハンドソープを使用して手洗いをしてください。
- ・待合スペースでは、隣の人と1メートル以上間隔をあけて座り、会話を避けてください。
- ・相談時間は30分程度とさせていただきます。ご了承ください。
- ・スタッフが緊急性がないと判断した相談については、感染の収束までご遠慮ください。

また、スタッフ・ボランティアに感染者が出た場合、当団体の相談活動は14日間停止します。
相談機能を維持するために、上記の点についてご協力ください。

もやい理事長 大西連





毎週、土曜日に新宿都庁下にて、
食料品配布と相談会を実施。

土曜の相談会は毎回、

- ・ 150～350人に食料品を配布
- ・ 40人程から相談
(市販の薬の配布ふくむ)

これまで、

- ・ 約1.2万人分以上の食料品配布
- ・ 約1.5万枚のマスクを配布

⇒いずれも昨年比で、

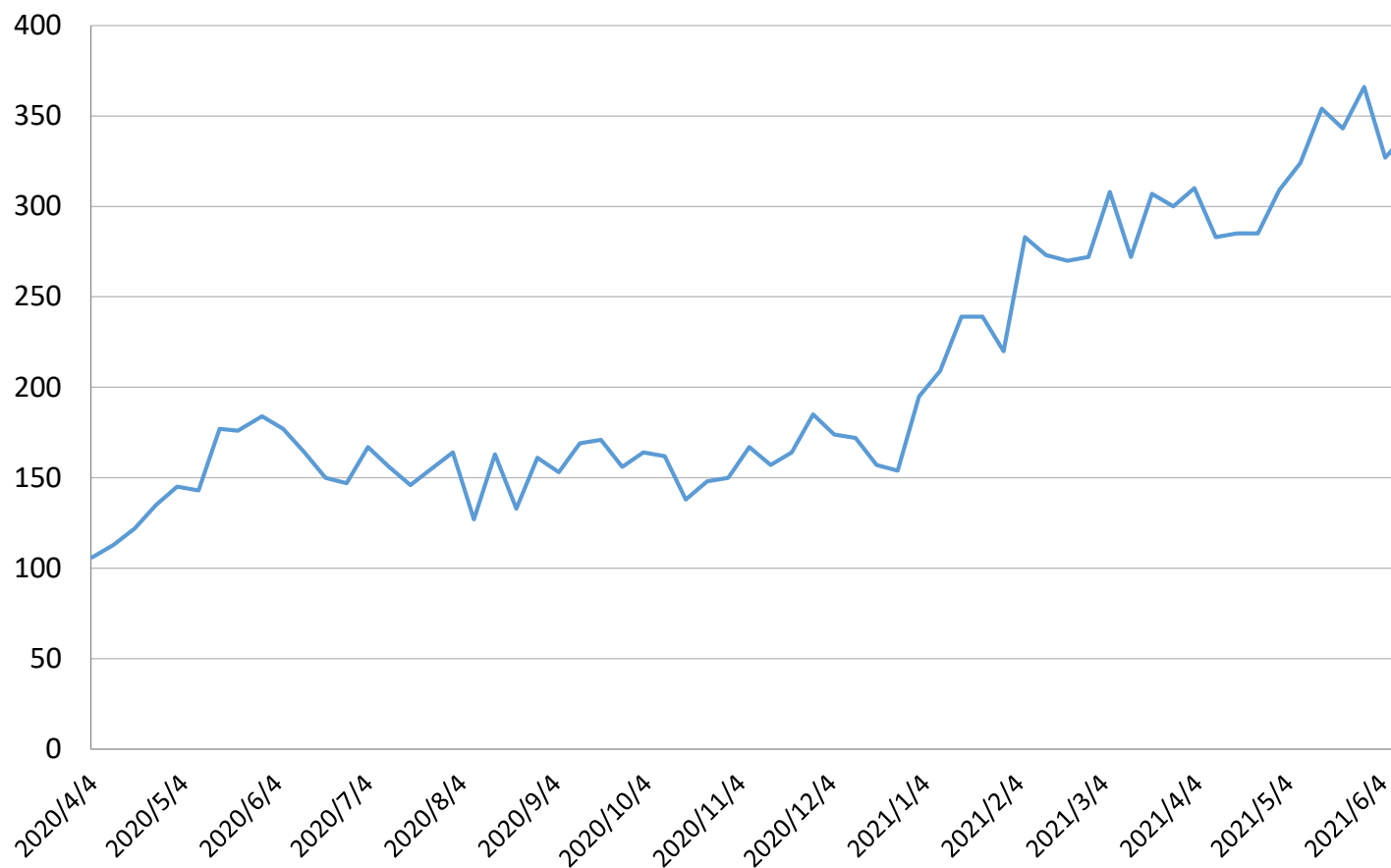
2～2.5倍の人数にのぼる。





食料品配布に訪れる人数は現在進行形で増加中

新宿都庁下での食料品配布人数（実数）





4月以降、保証人引き受け世帯等
にお米10kg×500世帯分送付

また、渋谷、山谷、池袋などの
野宿者支援団体に対して、
4月～12月で約3トン分のお米や
支援物資を提供。

さらに、外国人支援をおこなう
団体に対して、約2トンのお米を
提供。

合わせて、10トン以上のお米や
支援物資を援助。





面談での相談は、火曜と土曜。
ほかに、電話、メールなど。
相談件数は去年の**1.5倍以上**。

面談相談は4月～12月で、
930人から。
薬のみを含むと**1786人**。
生活保護の申請同行なども実施。
公的支援の利用までの宿泊費等
の現金を**200人以上に支給**

4月以降は、メール等での相談
も増加している。
住まい結びはオンラインフォーム
を開設し（現在は停止）、3か月
で**約120件の相談**が来た。



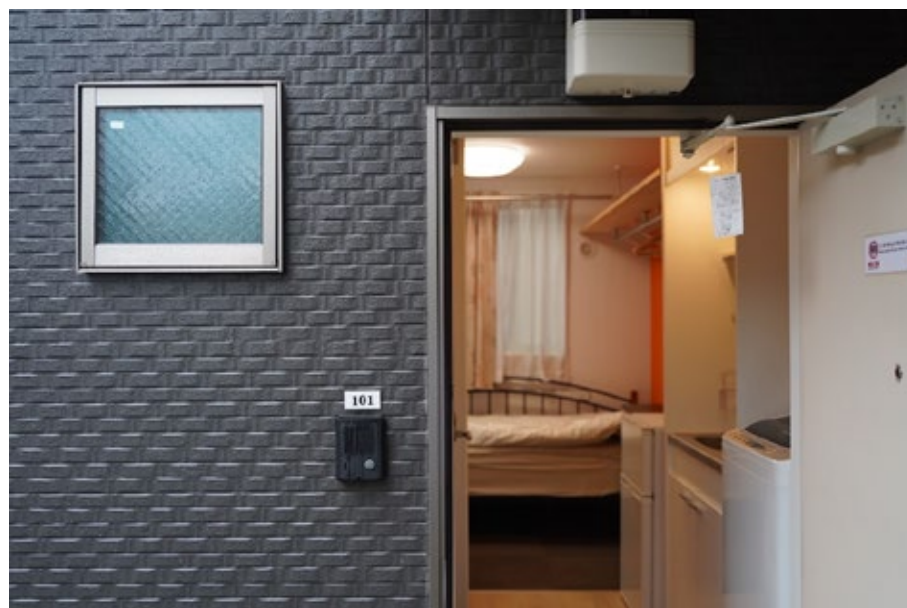


9月からシェルターを新設。
現在は、全部で9部屋。
アパート型のシェルター。

次のアパートに移るための
シェルターであり、3か月程度の
利用を想定。

※都内の「無低」や「自立支援
センター」は複数人部屋が多い

Stay Home を実現するために、
居住支援の取り組みにもより、
コミットしている。





3/25 稲津厚労副大臣に要望書
提出（困窮者支援関係）

6/10 総務省に要望書提出
（定額給付金関係）

6/12 東京都に署名提出
（選手村活用）

10/10 河野太郎大臣が視察

11/19 山本厚労副大臣に要望書
提出（困窮者支援関係）

12/23 東京都に要望書提出
（年末年始関連）

その他、4月以降のメディア掲載
は200件以上





コロナで増加した相談とその内容

もともと、脆弱な生活基盤の人が多くいた

- ・ 非正規（派遣・契約・請負・日雇い）
- ・ 低収入
- ・ 住み込み
- ・ ネットカフェ生活

これまで景気に支えられていて、
見えにくい・表出していなかった



コロナ禍での相談は、女性や若者からの相談が増加

- ・ 新宿都庁下での食料品配布は1割強が女性
(通常路上での食料品配布に女性はほとんど来ない)
- ・ 20代前半～30代からの相談件数が多い。(全体の4割)
- ・ DVや虐待など、暴力被害を訴える相談が多い
- ・ もやいシェルター利用者の8割は女性もしくは若者

元々、もやいの相談は、
女性(約4割)、若者(30代以下が3割)と多いが、
その傾向が顕著になっている。
また、肌感覚だが、自死念慮を持つ人も増えている。



元々、生活が厳しかった「女性」や「若年層」
の人たちに、より大きなダメージが及んでいる



コロナ以降にきた相談 ①

- ・ 20代前半の男性
- ・ 都内の飲食店に勤務
- ・ お店が閉店で寮を出てネカフェ生活に
- ・ 家族関係は悪く頼れない
- ・ うつ病が悪化
- ・ 所持金が数百円しかない



コロナ以降にきた相談 ②

- ・ 10代後半の女性
- ・ 以前から実父から身体的虐待あり
- ・ 児相に保護された経験もあり
- ・ 父が在宅ワークで家にいる時間が増加
- ・ 家に居場所がなく、外も自粛
- ・ 希死念慮が強まる



コロナ以降にきた相談 ③

- ・ 20代半ばのシングルマザー
- ・ 未就学児2人と都営住宅で3人暮らし
- ・ 飲食業で働くもお店が営業停止に
- ・ 収入が減少し貯金も底をつきそう
- ・ 生活保護には抵抗感がある
- ・ 相談できる人が周囲にいない



コロナ以降にきた相談 ④

- ・ 20代半ばの男性
- ・ 求職中にコロナで仕事が見つからない
- ・ 前職はパワハラでうつになり辞めた
- ・ 失業給付が切れて収入がない
- ・ 保険証もなく通院できていない
- ・ 家族との関係が悪く頼れない



苦しい状況の人が増加している……

【生活保護】

厚労省によれば全国の生活保護の「その他世帯（稼働年齢層）」は、2020年3月～12月で5,417世帯しか増えていない。

【緊急小口資金貸付・総合支援資金貸付】

厚労省によれば貸付の新規申請件数は、2020/3/25～2021/6/5まで、全国での累計支給件数は**229万9183件**に。（2011年度は約10万件）
累計支給決定額は**9723.6億円**。

【雇用調整助成金】

厚労省によれば、2021年611日までで新型コロナに関連した雇用調整助成金について、累計申請件数が**365万1791件**にのぼると発表。
累計支給決定額は、**3兆7276.63億円**となっている。

⇒公的支援で多くの人を支えているが。



コロナが長期化して起こりうるリスク

【正規の人の失業リスク、非正規の人のダメージの拡大】

雇用調整助成金等の雇用を守る施策の期限が切れていく。
失業給付を受けている人で切れ始める人がでてくる。

【貸付による債務がかさみ、生活再建しない人が増える】

100万円以上の公的借金を抱え、生活再建が進まない。
民間の消費者金融等で借り、多重債務になる人が増える。

【住まいを失う人が増える】

家賃滞納、更新料が払えないなど住まいを失う人が増加する。

【子育て世帯に深刻なダメージ 進学・就学に影響】

就学援助利用世帯が増加。進学先変更、学校外教育の格差が拡大。

【生活保護利用者が増加、要保護者が生活保護申請を躊躇う】

生活保護水準以下の人が増加し、申請数も増加。

一方で、水際作戦の増加や申請をためらい餓死・孤独死も。